

健苗作りに向け巡回で管理指導

営農企画課

J Aでは水稻育苗の生育状況の確認や農家からの相談に応えるため、4月21日から28日までの6日間に渡って、管内3地区で苗代巡回を行いました。

J Aの営農指導員が、生産者と共に育苗ハウスを巡回して、床土や苗の状態、温度管理等について細かく確認を行いました。巡回した営農指導員からは「種まき後に低温の日があったが、苗は順調に生育している。育苗期間の気温は高いと予想されていることから、ハウス内の温度が急に上がる危険性が出てくるので、苗焼けや徒長苗、病害等を防ぐためにも温度管理の徹底に努めてもらいたい」と注意を呼び掛けました。



▲各生産者ハウスの育苗管理を確認



▲食味官能コンクールの受賞者も表彰された

稲作技術のさらなる向上を目指す

稲作部会

稲作部会（堀内直富久部会長）は4月8日に総会を開催し、部会員約20人の参加のもと、平成27年度事業報告や28年度計画について協議を行いました。

佐藤組合長は「厳しい農業情勢で先の見えない状況だが、今後も水稻プラス野菜の複合経営を進め所得向上を目指してもらいたい。地域農業の可能性をさらに高める観点から、様々な課題の解決について最善の努力をしていく」とあいさつ。今年度の計画では、健苗コンクールの実施や食味官能コンクールの継続実施等を盛り込み、管内水稻栽培の技術向上を図り、高品質・良食味米の生産を目指すことを誓い合いました。

産地の維持と周年出荷体制の確立に努める

アスパラガス部会

アスパラガス部会（山谷清英部会長）は4月14日に実績検討会および総会を開催し、部会員約20人の参加のもと、平成27年度の実績や事業報告などについて協議を行いました。

27年度の販売実績は26年度の実績を15,000千円上回る結果となり、販売数量24.86t、販売金額45,640千円となりました。販売のJ A担当者からは「M、Lの細ものが中心だったが、収量が多く、1年を通して単価が高かったことでいい結果となった。今年度も高品質のアスパラガスの出荷を期待しています」と話しました。また、株品評会の表彰も行われ最優秀賞には桜田和浩（切石）さんが輝きました。



▲品質向上と更なるロット拡大を目指す



▲部会内で意識の統一が図られた

面積拡大、収穫量増加を目指す

山うど部会

山うど部会（桜田和浩部会長）による通常総会が4月12日に開催し、部会員約25人の参加のもと、平成27年度事業報告や28年度計画について協議を行いました。

桜田部会長は「昨年度は睡眠不足などの影響で山うど栽培の難しさを改めて感じた年だった。それでも部会員の丁寧な仕事ぶりで高品質の山うどを出荷できた。収量が減ってきており産地としての不安があるが、J Aと部会員が一緒になって面積拡大、収量の増加に取り組んでいきたい」とあいさつ。28年度計画では、販売額150,279千円を目指し、視察研修や株品評会、販売キャンペーンなどの開催を盛り込みました。